

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々に新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 48号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：魅力あるまちづくり日新 広報部会
 福井市文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：平成30年(2018年)12月20日

昨年の豪雪からの教訓を生かそう！

堀ノ宮自治会長

黒岩 丈介

(福井を第三者としてみるならば)

「黒岩さんは広島から来たので、今年の大雪はきっと驚いたでしょうから、それについて何か書いてくれませんか？」と言われたのが、この記事を書くこととなったきっかけでした。しかしながら、私は青森県弘前市の出身です。近くにある青森市は30万人以上住む都市としては日本だけでなく世界一の豪雪地帯であり、毎年8m近い積雪になる所もあります。

右の写真のような風景は、1~2月の間は毎日のように見られます。

しかし、今年の福井のような雪のため1週間近く生活が困難になるような体験は、初めてでした。向こうでは、豪雪に対する除雪体制が整っているので、こんなことにはならないのだと思います。



周りは真っ白



雪に埋もれる車

ここでは、今年の経験から感じたことを少しだけアドバイスも含めて紹介したいと思います。

今年の雪による災害期間中、私が家の外に出ると、毎日平均4~5台は雪に埋もれて身動き出来なくなった車を救出していました。それが、ほぼ5日間は続いたでしょうか。私なら雪に慣れているので、雪の状態を見れば車を動かせるかどうか直ぐに分かります。そのため、あの期間は車を使用しませんでした。逆に、何故あのような道路の状態で車を動かそうと思うのか理解が出来ませんでした。やはり、災害の時には、何をすべきか、何をしたら危険なのかを適切に判断する能力を日頃から養う必要があるのだと思います。それは、日頃の災害時のニュースを自分で考えて聞くことで養えると思います。

最後に、今回の災害を含めて福井に来て驚いたことがあります。それは、福井の人がほとんど雪かきをしないことです。今回の雪による災害も、地域の人が自分たちの生活道路の雪かきをしていたなら、もっと早く復旧していたと思います。地域の皆で助け合い生活道路の除雪をする意識付けは、今後も役に立つのではないのでしょうか。

日新地区の防犯

日新交番

廣田 正和

平成30年9月末現在における日新公民館管内の刑法犯の発生件数は20件で、前年同月比マイナス3件と減少傾向にあります。私が日新交番に赴任した平成26年には1年間に56件の刑法犯が発生していましたが、平成30年は未だ終わっていないものの、平成26年に比べればかなりの減少数が予想されるようです。これは日新地区防犯隊の方、日新交番連絡協議会の会員の方等が行っている夜間パトロールや、交通関係のボランティアの方々の街頭指導等、地道な活動・努力がもたらしたものです。

これから年末に向けてより慌ただしくなりますが、私達日新交番一同は日新地区の皆様と手を携えて安心して安全な日新地区を目指して防犯活動を推進していきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。



日新地区の防犯 ZERO を！

全国的な少子化の波が本校にも押し寄せ、児童数はピーク時（558名）の半数以下の261名となりました。児童数が一番多い二年生でも55名です。

しかし、すべての学級が30人以下なので、一人一人に目の行き届いた教育活動ができていないのではないかと思います。本年も、日新地区の皆様には、本校児童の健やかな成長に多大なご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。



今年当初の大雪で福井市の財政が逼迫し、夏休みのプール開放も危ぶまれましたが、保護者や地域の方々のご支援で、何とか最後までプール開放ができました。改めて、地域の方々に支えられて、子どもたちが健やかに成長していることを実感しました。

今年も各学年の「総合的な学習の時間」を中心に、地域の学習が進められました。学校だより「にっしん」でその様子をお伝えしていますが子どもたちから地域に向けて発信する機会が少ないのが現状です。子どもたちが調べた「日新地区のひみつや良さ」を地域の方々と共有し、「魅力あるまちづくり 日新」に生かせたらと考えています。今後も、本校の教育活動にご理解ご支援を賜りますようお願いいたします。

底喰川探訪 川が泣いている 野村 勉

私は毎朝、夫婦で新堀橋から権現堂橋の兩岸をウォーキングしはじめて約2年になります。毎日顔を合わせる常連さんには「おはようございます！」と挨拶し、犬を連れての散歩の人にもお会いします。うちのかみさんなんかは犬に対しても「おはよう」と声をかけます。



そして気持ちのいい気分で一日が始まるはずですが、川の方に目を向けると、心無い人によって投げられたマーケットの袋、段ボール、ペットボトル等が

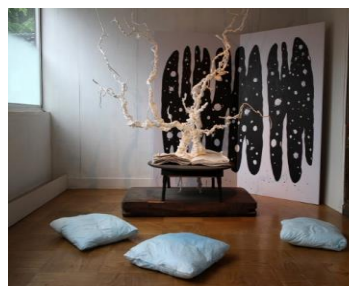
河川端に多数浮遊しており、がっかりします。これでは、まちづくりの環境部会をはじめ多数の有志の方々による毎月の川辺の清掃、ミソハギの植樹などが台無しになってしまいます。なんとかして河川敷きのゴミゼロを達成できないものでしょうか。よい知恵があったならば聞かせてください。

ところで、先月の10日ごろから川に油が浮遊していたことはご存知ですか？11月10日の16時ごろに北陸高校グラウンドの近くでの河川工事中のショベルカーが川に転落し油が流れ出しました。すぐに県が対応し事故現場から堀橋までの間にオイルフェンスを9ヶ所設け、4日間ぐらいで油は消去されました。日新のシンボリック存在の「底喰川」に清流が流れることを夢見て!!!



街の文化人

今回は福井商業高校で外国語指導助手（ALT）を務める傍ら、月に1、2度、今立の和紙工房に通うアメリカテキサス州出身のニコラス・クラディスさん（32）を紹介します。幼少の頃から絵が好きで、高校の美術の授業で見た浮世絵に心を奪われ、日本文化に憧れました。



そして、特に版画の和紙に興味を抱きました。学生時代には日本に留学、大学院修了後、「和紙のことをもっと知りたい」と2014年に

英語を教える仕事で福井に来られました。

昨年は福井に来た時から漉いていた和紙を使ってアートを創り、武生で個展を開きました。また、福井県立大学で英語での日本文化についての講義も行っています。



将来は福井のぬくもりを感じさせる作品を集めたギャラリーを持ちたいと言っておられます。（野村）

平成 30 年の公民館まつり

今年の公民館祭りは 10 月 21 日、小春日和の中、盛大に行われました。公民館内は自主グループの数々の作品が展示され、大会議室の舞台でも一年間の学習の成果を発表しました。また、館外では色々な模擬店がオープンし多くの来場者で賑わいました。最後はヒートアップ富くじで終了しました。



十一月十八日 朝もやの立ち込める中を三々五々集まった四二名の参加者に乗せたバスが公民館を出発しました。まずは研修先の四日市環境未来館に到着しました。この館は、二〇一五年に開館され、展示されているものはコンピュータから発生する大気汚染公害への訴訟を勝ち取った裁判、映像などです。これらは今日の環境問題を提起する上で大きな役割を果たします。また当時の人々の苦悩もわかりやすく紹介されていました。この後暖かい日差しの中、繁栄を誇った松坂商人を代表する旧長谷川邸や御城番屋敷を見学しました。そしてお待ちかねの昼食は松坂肉専門店「千力」の焼肉・すき鍋で乾杯した後、美味しく頂きました。午後にはベルファーム農家市場で、地場野菜やお土産品などを見ながら一休みし帰りの伊勢道では渋滞に遭遇しながらも無事帰館しました。

四日市環境未来館研修&松坂牛ケルメの旅

友田 和恵



これはなあに？



夜に散歩をしている時のことです。えちぜん鉄道「福井大西福井駅」の踏切の近くに緑色の点滅する石を発見しました。これはいったい何でしょう？

「福井大西福井駅」周辺のお宅への聞き込みをしたところ、3 日目に詳細をご存知の足立敏男さん（文京 4 丁目在住）に出会いました。

この石が設置されている場所は「底喰川改修記念公園」です。平成 18 年の 11 月に明治一大正期の改修記念碑を移設し、同時にホテルをイメージしたこの「蛍石」を配置したとのこと。この石は平成 17 年に死去された国際的な造形作家、井田照一さんのデザインによるものです。ホテルの尻のように丸みを帯びた自然石に 6 個の電飾を埋め込み、太陽電池により、夜になると淡い緑色のライトが点滅する仕組みになっています。



是非、夜の散歩のついでにご覧ください。尚、風邪をひかないようご注意ください。

今年度の「底喰川を中心とした環境美化活動」の9ヶ月を省みると、自然と人をどう生かすかの日々でありました。例年にない連続した台風の到来、1ヶ月に及ぶ暑さと、雨が降らず降水量不足で作業は苦戦を強いられました。

しかし、花壇への土入れや花の植え付け時期など、多くの予定変更を余儀なくしたにもかかわらず、最終的には当初の計画を終えることができたのは、多くの方々の協力のお陰であります。本当に日新地区の方々に感謝すると共に、誇りに思います。



今ではミソハギ・草花、樹木の手入れ、そして雑草の除去、ゴミ拾いの作業もほぼ定着し、定例清掃では住民の方々が170名、一斉清掃では230名、そして藤島中学校94名、福井商業高校からは150名、有志による活動も80名以上で合計730名を越す参加者が協力して頂きました。また、県への要請事項も一部工事が完了しました。12月以降も止まることなく活動は続きますが、地域住民の皆様の更なる参加をお願いいたします。

平成30年も僅かの期日を残すのみとなりました。皆様方の1年間は如何なる内容でしたか？当コミュニティバスの運行事業も各住民のご理解と絶大なる協力体制により、平成22年4月の新組織誕生以来8年間を経過しています。特に今年は3月末までの本格運行の2次査定がなされ、その結果は既にご承知の如く目出たく承認をもらい10月より3ヶ年（2021年9月迄）の運行推進が確保されるに至りました。これひとえに地域住民の後押しがあったことで、誠に有礼を申し上げます。また、8月より事業推進内容（休日、ルート・ダイヤ）の変更は住民の皆さんにはご不便をかけた内容もあったかと思われませんが、現事業内容を長期にわたり安定的に永続的に運行するため、少しでも地域（特に高齢者）の皆さんが日常活動の不便が少しでも緩和される事が最大の目的としての改革であります。どうかその主旨を理解していただき、積極的に利用され大いに喜びが味わえるような事業としての確立を目指し、これからも街づくり交通部会一同存在価値を高めるために鋭意努力を重ねます。

今後ともご協力の程よろしく願いいたします。



今年は広報部の活動としては6月/9月/そして今回の12月に「ゆめ・にっしん」46/47/48号を発行しました。この3回の広報誌の内容は46号では、日新さんさんバスの第2次本格運行が承認されたことと、ミソハギ花まつりに向けての底喰川の改修などの準備を中心に記載し、47号では福井元気国体で活躍する地域の高校生とミソハギ花まつりを取材しました。そして、今回は前回の豪雪から豪雪対応は？師走に向けてどうするかを掲載しました。また、8月には「カザフスタンの民謡と語り」を開催しました。来場された方は満足された様ですが、参加者40名弱で少なかったことが残念でした。



広報誌「ゆめ・にっしん」はまもなく50号の節目の発行を迎えようとしています。今後もより一層文化的な内容のある広報誌を目指したいものです。そのためには地域の皆さんから情報を提供していただくことが大変重要なことであると思います。受信だけでなく発信する一員になってください。

今後ともよろしく願いいたします。